

1 黒星病について

(1) 落葉からの子う胞子の飛散

モニタリング調査（人為的に感染落葉を敷き詰め、子う胞子の飛散量・時期を調査）における3月15日～5月15日の落葉からの子う胞子累積補足数は、49個/cm²（前年62個/cm²）と少ない状況でした。

(2) 果そうの発病率

表1のとおり、5月中旬における果そうの発病率は、前年に比べ少なく、ほぼ平年並みです。ただし、一部園地では果実や葉での発病が多く見られており、今後とも注意が必要です。

表1 年次別の5月中旬の黒星病発病果そう率(%) 令和7年調査日：5月13日

| 品種 | R7 | R6 | R5 | R4 | R3 | R2 | R元 | H30 | H29 | H28 | 平年 |
|------|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 幸水 | 1.3 | 2.7 | 34.8 | 19.1 | 2.4 | 0.3 | 0.8 | 7.4 | 3.1 | 5.9 | 3.3 |
| 豊水 | 0.3 | 1.0 | 18.6 | 7.3 | 0.6 | 0.4 | 0.7 | 7.8 | 12.1 | 5.9 | 4.6 |
| あきづき | 0.0 | 1.0 | 8.3 | 0.5 | 1.0 | 0.0 | 0.5 | 2.5 | 2.5 | 0.0 | 1.1 |
| 新高 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.4 | 1.1 | 0.4 | 0.5 |

※H27（多発年）は6月から調査を実施

(3) 今後の対策

①基本防除の強化・徹底（十分な散布量、丁寧な散布）

- ・防除計画に準じ、効果の高い薬剤を適正な防除間隔で散布してください。
- ・降雨前散布を徹底するとともに、SSは「低圧、低速、全列走行」、黒星病の発生が比較的多い園地外周部等の補正散布を徹底し、散布ムラを極力無くすよう努めてください。

②耕種的防除の徹底

- ・芽基部病斑、罹病果実、葉は見つけ次第摘み取り、園外に持ち出して処分してください。
- ・短果枝群や側枝の基部では、葉の展葉にともない薬剤到達性が悪くなり、黒星病に感染しやすくなることから、摘果作業と並行して「芽かき」を実施してください。
- ・黒星病の発生がかなり多い園地では、り病葉の摘み取りにより葉枚数不足が懸念されるため、摘心は必要最低限（予備枝の一本化、枝病斑のある新梢の切除、新梢が込み合い暗くなっている箇所の間引きなど）にとどめ、葉枚数の確保に努めてください。

2 仕上げ摘果作業について

- ・仕上げ摘果は、表2の着果量基準を参考に、満開60日後（6月17日）頃を目安に終了するよう作業を進めてください。
- ・黒星病の罹病果は、確実に切除して園外に持ち出し、適正に処分してください。

表2 仕上げ摘果時の着果量（目安）

| 品種名 | 1㎡当たりの着果量 | 側枝長当たり（100～120cm） | 1樹当たりの着果量（3間植の場合） |
|------|-----------|-------------------|-------------------|
| 幸水 | 10～11果 | 5～6個 | 290～320果/樹 |
| 豊水 | 11～12果 | 6～7個 | 320～350果/樹 |
| あきづき | 11～12果 | 6～7個 | 320～350果/樹 |
| 新高 | 9～10果 | 4～5個 | 260～290果/樹 |

- ・なお、有てい果の発生が多い場合は、樹勢・樹形維持の観点から、5月16日付で農林振興センターから配布のあった「技術対策：有てい果（ゆうていか）の摘果について」を参考に摘果を行い、適正な着果量を確保するよう努めてください。

3 これからの防除について

| 回数 | 散布月日 | 薬剤名と希釈倍数 | 散布量 | 主な対象病害虫 | 防除実施日 (自己記入) |
|---------------------------------------|----------------|---|-------------|--|-----------------|
| 10 | 5月26 ～28日 | ベルコートフロアブル アプロードフロアブル 1,500倍 1,000倍 | 300 リットル | 黒星病、輪紋病、うどんこ病 カイガラムシ類幼虫 | |
| 11 | 6月5 ～7日 | オキシラン水和剤 ファルコンフロアブル トランスフォームフロアブル 600倍 6,000倍 2,000倍 | 300 リットル | 黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類 カイガラムシ類、アブラムシ類 | |
| 12 | 6月15 ～17日 | キャプレート水和剤 ダントツ水溶剤 600倍 4,000倍 | 300 リットル | 黒星病、輪紋病 シクイムシ類、カメムシ類、 コナカイガラムシ類 | |
| 13 | 6月25 ～27日 | オキシラン水和剤 サムコルフロアブル10 600倍 5,000倍 | 300 リットル | 黒星病、輪紋病 シクイムシ類、ハマキムシ類、 ケムシ類 | |
| 14 | 6月30日 ～7月2日 | ダニゲッターフロアブル 2,000倍 | 400 リットル | ハダニ類、ニセナシバダニ | |
| ●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう | | | | | |

※日付はあくまで目安です。降雨や風が強いと予想される場合は、前倒して散布するなど調整してください。

※ハダニ類の発生が早い場合は、アカリタッチ乳剤(2,000倍)を散布してください。

※散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。

※こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

※周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。特に、通学路に面した園地では、登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は、午前5時以降としてください。

4 新梢管理について

・短果枝群や側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤到達性が低く、黒星病が感染しやすくなります。摘果作業と並行して、図1のとおり「芽かき」を実施してください。

・側枝は先端付近の新梢1～2本を残し、それ以外は摘心してください。また、予備枝は先端の新梢1本を残し、残りはすべて摘心してください。

・樹勢の低下した樹では、芽かき、摘心を極力控え、樹勢回復に努めてください。

・黒星病の発生がかなり多い園地では、り病葉の摘み取りにより葉枚数不足が懸念されるため、摘心は必要最低限（予備枝の一本化、枝病斑のある新梢の切除、新梢が込み合い暗くなっている箇所の間引きなど）にとどめ、葉枚数の確保に努めてください。



図1 芽かき作業（左：芽かき前 右：芽かき後）